

第5回中播磨新地域ビジョン検討委員会 議事録

1 日時 令和3年12月22日(水) 16:00~17:25

2 場所 姫路職員福利センター3階 大会議室

3 意見交換の内容

〈委員〉

本体案については、これまでの議論がしっかり反映されており、特に大きな変更点等はないが、参考資料2にも整理されているとおり11月の地域未来フォーラムでは子どもや子育て関係の意見が多く上がっていた。本体案24ページの行動目標⑩「あふれる笑顔！子どもの成長をみんなで見守る」では、保育の受け皿確保など生まれてからの対応が中心であり、その前の「産む」という部分が少し弱く感じる。私の住んでいる地域でも、子どもを産む医療機関等があまり充実していない。例えば「産婦人科の充実」等の文言を加え、安心感を与えることはできないか。

さらに子育て分野については、高校生や大学生に子どもを産み育てていくことを学ぶ機会を提供することが大事だと思うので、高校生等への子育てに関する教育についても少し言及できないか検討いただきたい。

また、行動目標⑪「いきいき長生き！住み慣れた地域で健康な暮らしを支え合う」に関しては、大変うまくまとめられている。介護ロボットについては、何十年も前からいろいろと動き出しているが、看護にしても介護にしても福祉は人が携わっていかないと難しい業種なので、なかなか進まない。人材確保については県でも様々な施策を展開しているが、今後ますます厳しくなっていくだろう。現在、就労人口の8人に1人ぐらいが医療・介護・看護・福祉分野で働いているが、今後5人に1人ぐらいでないと立ち行かなくなるという話もある。大変難しい分野なので、しっかりと書いていただいているのはありがたい。

〈委員〉

本体案については、それぞれの将来像に応じて、赤・青・オレンジ・緑に色分けして記載していることに加え、写真の挿入等で非常に見やすくなっていると感じた。さらに、そこに三角形を基調にした締まった感じのイラストが入ると、全体としても非常に見やすくなると思う。内容としては、これまでの議論がきっちりとコンパクトにまとめられており、このような形でいいと思っている。

ただ一点、個人的に気になるのが、目次の次にいきなり柱立てが来て、その後イラストをアイコンとして詳細へと誘導する構成になっている点である。読み進めやすさを重視した構成だと思うが、10ページまでいかないと、中播磨地域ビジョンの定義にたどり着かない。ビジョンとは何かの説明をもう少し分かりやすく前の方のページに入れてもいいのではないかと思った。見る人への情報の伝え方を重要視するのであれば、そういった点も検討してはどうかと思う。

〈委員〉

全体としては特に思うところはなく、今後それぞれの時代に応じてまた修正がかかっていくものなので、これで十分かなと思っている。ただ一点、全体的なイメージでいうと、最初の会議の際に、中播磨と書かなくても中播磨と分かるようなビジョンに仕上がればいいという話があったが、やはり姫路城という言葉以外では、中播磨と感じにくい部分が多く、他の地域と同じような流れになっていることが少し残念に思った。

読んでいて気になった点としては、行動目標②「みんな「おかえり」！温かく迎え入れる」にある「地元に残っている人」という表現が少し引っ掛かる。どういう表現がいいのか思い浮かばないが、「残っている」と言うと、置き去りにされてそこに住んでいるようなイメージにも受け取れるので、ここだけが気になった。全体としては非常に読みやすく見やすくなっており賛成である。

〈委員〉

高校生のイメージイラストはすごく良いことだと思う。今、議論をしている30年後は、この高校生たちが働き盛りになっている時代なので、高校生にビジョンづくりに参加してもらうことは良いことであり、大賛成である。

一方で人口減少の問題は、漁業や農業の分野では深刻な問題である。農林水産業は非常に人手が要る仕事なので、昨今は外国人研修生等に頼っているが、AIなど先端技術を導入することで、研修生に頼らず持続できないかと思っている。ただし、担い手の高齢化が進むと、先端技術の導入が難しくなるという別の問題も出てくる。

やはり農林水産業に関しては、収入を安定させることが非常に重要だと思っている。最低限の生活保障ができる状態で、従事してもらいたいと思う。

私から見ると、このビジョンは非常に難しい問題である。とてもうまくできているとは思っているが、これで十分なのか自分自身でも分からないところがある。

〈委員〉

本体案に関しては、これでいいと思っているが、一点だけ気になることがある。私は神河町で川の釣り場づくりを行っているが、海の貧栄養化が今問題になっている。山に降った雨が川となって播磨灘に注ぐというところで、市川や夢前川の活用をビジョンに盛り込めないか。15ページの行動目標①「姫路城に続け！地域資源を磨く」で中播磨地域の魅力が書いてあるが、できればここに市川や夢前川の活用も少し取り上げてもらえたらありがたいと思っている。

29ページの行動目標⑮「備えあれば憂いなし！安全安心な暮らしを守る」においても、防災面で川の氾濫等も考えていかななくてはならないので、一言二言でも入れることができればと思う。その他は全く思うところはなく、とても素晴らしいものが出来上がったと思っている。

〈委員〉

これまでの議論がうまくまとめられており、写真も入ったことですごく見やすくなったと感じた。2月に完成するイラストがとても楽しみであり、イラストが入ることですらに見やすくなると思う。一つだけ気になったのが、20ページの本文の上

から8行目と取組アイデア案の上から5行目の「こだわりや思い」の「思い」について、私たちは「想い」という表記をよく使う。個人的には、「想い」の方が地域生産者が農産物等に込める気持ちをうまく表現でき、相応しいのではないかと思う。

〈委員〉

手に取って読んだときに、字体も程良く、写真も適宜入っていて、誰にでも分かりやすく、また丁寧な噛み砕いた内容になっていると思った。写真については、本当に良い写真を選んでいると思う。中播磨地域の現状や課題について、あらゆる角度や様々な視点から事細かく記載されており、それぞれが抱える問題・課題について、気づいて考えるきっかけとなる内容になっていると思う。今後、こうした課題等を踏まえた解決に向けての継続した取組が、30年後に私たちが暮らしたい地域として、大きなカギになってくるのではないかと感じた。また、取組アイデア案については、委員から出された意見もしっかり盛り込まれており、うまくコンパクトにまとめていると思う。中播磨地域の行動目標を、SDGsと照らし合わせることで、自分が知りたいこと等が一つ一つ確認でき、各個人がやりがいを持って、できることから取り組んでいこうという意識につながるものになっていると思う。

先ほども話が出たが、1回目の検討委員会の際に「中播磨とすぐに分かるビジョンにできれば」という意見が出ていた。中播磨という視点で見たときに、どうしても姫路城や銀の馬車道、家島諸島の観光、祭りなどに目が行くが、「都市部ではできない非日常の体験（農業体験、漁業体験、歴史文化体験等）をプラス」という文言が入っていることで、ここに中播磨らしさが表現できているのではないかと個人的には感じた。また、中播磨の皆さんが、大切な地域の資源を宝と思っていることが伺えるものになっており、それを継続して活用し広く周知させることで、後世につなげることに役立つと感じた。

最後になったが、このビジョンの策定の時期にコロナ禍に入り、テレワークやオンラインを余儀なくされ、今はそれが便利で効率の良いものとして受け入れられてきている。デジタル化がますます進み、どこで暮らしていても働ける時代になってくると思われている中で、まさに新ビジョンの内容にも、そうしたことがしっかり盛り込まれているので、私としては時代の潮流を感じている。

〈委員〉

一点だけ検討してもらいたいところがある。私たちもよく文章を書くときに横文字を使う。本体案でも、例えば15ページの取組アイデア案の「バーチャルリアリティ（VR：仮想現実）」のように解説が端的に入っているところがある。一方で、11ページの「テクノロジーの進化」の表に「コネクテッドカー」という表現があるのだが、私はこの言葉が分からなかった。インターネットで調べてみると、もうすでに導入されている技術であることが分かった。このビジョンは多くの人が見るので、こういったところをもう一度精査し、簡単でいいので注釈・解説を入れることができればいいと思った。同様に、24ページの取組アイデア案の「インターネットリテラシー指導」もあまり馴染みのない言葉なので、注釈が入ればより分かりやすくなると思う。

〈委員〉

やはりビジョンの説明や必要性がしっかり入るといいと思う。ビジョンとは何かという分かりやすい説明が冒頭にくることで、読む人に「こういうことを目指しているんだな」と思ってもらえるので、上手くまとめてもらえたらと思う。私の地区ではこの新ビジョンを活用しようと考えているが、70代以上の人に意見を聞くと、「難しいことばかり言っているがビジョンとは一体何なのか」と言われる。中播磨地域ビジョンがどのようなものなのか多くの人に分かってもらえるような説明が最初があれば、活用する側も非常に助かると思う。

また、25ページの取組アイデア案で「高齢者の一人暮らしや引きこもりを防止するため、二世帯住宅へのインセンティブを設ける」と書いてあるが、実際に中山間地域で二世帯住宅を今から建てようとしている人はとても少なく、ほとんどいない。我々の時代は同居の二世帯・三世帯が主流であったが、今は近所に家を建てる「近居」が多く、今後も増えてくると思うので、「同じ集落等の近所で建てるのであればインセンティブを考えましょう」というアイデアも入れてはどうか。

〈委員〉

内容についてはこれまでの議論や意見を踏まえて、よく精査されているので、この案に本日の意見を反映して作成してもらえたらと思う。構成については、先ほど言われたように、導入部分が少し唐突な印象を受ける。例えば2ページ以降の①～⑩は行動目標だが、ここをいきなり開けると丸数字は何のことだったかと1ページに戻らないといけないので、前に少し何か加えたり、最初に凡例や説明を付けたりしてはどうかと思う。冒頭はよく工夫されており、イラストも入る概要版的な導入になるので、ずっと内容が入るようにしてはどうかと思う。

また、先日示された全県ビジョンの案に、全県ビジョンと9つの地域ビジョンとの関係図があったが、中播磨も他の8地域と切磋琢磨しながら取り組んでいくという位置付けがあるので、そうした記載があってもいいと思った。他の委員が言われたように、冒頭にビジョンの定義等を説明する巻頭言のようなものがあると、もっと良くなると思う。用語解説や資料については、情報量が多くなり過ぎるようであれば、本編ではなく参考編のような形にするなど、検討してもらえたらと思う。

〈委員〉

ビジョンという俯瞰の観点ではなく、私が今思っていることを発言させていただく。例えば20ページの⑥「広がる担い手！多様な農林水産業で暮らしを支える」の中で、「労働環境の実現（週休2日制）」という記載がある。先週、神戸新聞に私が農業をしている記事が掲載されたが、私が一番訴えたかったのは、働きやすさとは休みだけなのかということである。例えば、トイレの問題である。生理現象が起こったらどうするのかということ。私が持っている農地は、会社に比較的近いので問題ないが、実際のところ、もう少しきちんと考えなければいけない。農地法等いろんなことがあるが、日本全体の農業に対する考え方を変えるべきではないかと思う。また、農地や海等は、生産するだけの場所ではなく、私は景観という意味合いも大きいと思う。例えば、仕事柄、スイスに行くことがあるのだが、スイスでは、

農地を守る景観のための補助金がある。補助金を出すべきだと言っているのではないが、もう少しそういう視点も必要ではないかと思う。

話を聞いていると、中播磨を田舎というニュアンスで言われているように感じるが、田舎ではないと思う。先日、県立大学で講義をした時にも、学生たちに「姫路は近畿で何番目のまちか知っているか」と問いかけた。近畿では5番目であり、大阪、京都、神戸、堺、その次が姫路である。ここを田舎と言ってしまうと、他はどのようなのか。ほどよい都市感覚プラス豊かな自然や面白いものがあるのが中播磨だと私は思う。そういうニュアンスが入ると面白いのではないか。その成功例の一つが旧夢前町の夢前ゆめ街道であり、非常に面白い取組だと思う。一番奥に香寺ハーブガーデンのハーブ工場とレストランがあり、駅の方へ戻ってくると明珍火箸の日本刀の工房がある。ヤマサ蒲鉾のテーマパークのような工場もあり、夢前夢工房はIoTを駆使した農業を行っている。一つの具体例として、ゆめ街道のような取組を入れたら面白いのではないかと思う。

〈委員〉

これまでの議論がきちんと反映されており、とても良くなってきていると思う。内容については特に意見はない。

〈委員〉

内容的には特に意見はない。デザイン面についてあえて提案をするのであれば、本体案2～9ページの行動目標の文字が少し大きくて見づらい印象があるので、もう少しサイズを小さくしてもいいのではないか。また、15ページ以降の行動目標の紹介ページに「分野」が全く出てこないの、どこかに少し入れてみてもいいのではないか。最後に表紙について、現在の案では「中播磨地域ビジョン」というタイトルと、基本姿勢のキャッチコピーしか入っていないが、2050年に向けたビジョンであるということが分かるように、どこかに「2050」という数字が入った方が、デザイン的にもいいのではないか。

〈委員〉

中身とデザインの両面に関わる話であるが、どのように見せていくかがポイントである。例えば、ペットボトルのラベルをはがしたときに、飲みたいと思うか。おいしいかどうか分からず、そもそも飲んで平気なものかどうか分からない。ビジョンも同じで、我々は何度も見ているので何が書かれているか分かっているが、初めて見る人がこのビジョンを読みたいかという、そもそも何なのか分からないと思う。そういう意味で、見せ方をもう少し工夫しなければいけないと思っている。

1点目は、要はビジョンとは何かということよりも、これが何のためにあるのかということ。例えばこれはマニュアルなのか、あるいは教科書なのか、シナリオなのか、バイブルなのか。この文書は、読み手にとって何をもたらしてくれるものなのか、我々側の認識をそろえた方がいいと思っている。ビジョンと言うと分かった気になってしまうが、ビジョンと言われても、普通の人は何なのか分からないと思う。私なりに、未来へのガイドブック、未来を考えるときのガイドであると理解をしている。これを頼りに少し未来を考えてみましょうという感じであり、未来へ

のガイドブックという言い方の方がビジョンよりも伝わるのではないかと思う。そういう発想のもと、前文や巻頭言が必要だと思う。33 ページも非常に良い文章だと思うが、何のためにこの文章があってどのような利用のされ方をイメージしているのかを最初に書いてはどうか。

2 点目は、目次の書き方である。目次を見ると、上に2つ〇があり、その下に1～8までの数字があるが、一番上の〇2つが何なのかが書かれていない。我々はサマリーだと分かるが、初めて見る人はこれが何なのか分からないと思う。一番重要な2つの〇の部分は何なのか言葉を入れる必要がある。この目次を見て、それぞれの項目が何なのかが一目で分かるような言葉を入れていただきたい。

3 点目は、全体のトーンである。このビジョンが未来へのガイドブックだとすると、ガイドブックのように見せていくことが大事だと思う。これからの作業になるが、今は行政文書のようなので、あまり読みたいと思えるものではなく、難しいことを押し付けられている印象を持たれてしまうと思う。その点を少し注意したトーンでデザイン化していく必要があると思う。

4 点目は、一つ項目を追加して、活用イメージを書けないかと思った。15 ページ以降の取組アイデア案は、自由なアイデアを書いているものであり、別に実現が約束されたものではない。「6 行動目標」の後あたりに新たに項目を立てて、このビジョンをどのように活用していくかのイメージを書いてはどうか。そうすることで、そのためにこのビジョンがあるのだと、より分かってもらえるのではないかと思う。

〈委員〉

10～12 ページに図表が挙げられているが、それぞれのデータの出典を明示した方がいいと思う。また、12 ページの農地が持つ多面的機能について、定義が最新のものになっているか農林水産省のホームページで確認をお願いしたい。

ビジョン策定の進行と関係するが、現在、香寺高校美術工芸部の皆さんに作成いただいているイメージイラストは、1 月頃には委員の皆さんに共有いただけるのか。

〈事務局〉

生徒の皆さんには、年内を目処に、デザイナーのアドバイスを踏まえて、イラストをブラッシュアップしてもらっている。それが出てきて様子を見た段階で、1 月中に皆さんに共有できたらと考えている。

〈委員〉

目指すべき姿の一番重要な部分が、イメージイラストで彩られるので、是非とも共有していただきたい。

また、34 ページ以降に参考資料として、新地域ビジョン検討委員会の委員名簿が記載されているが、新ビジョン策定にあたっては、その他にもたくさんの協力者がいると思う。例えば、香寺高校の皆さんも、策定そのものではないが、ビジョンの精神を理解し表現した方なので、ここにクレジットがあってもいいのではないかと思う。高校生だけではなく、ビジョンを語る会や地域デザイン会議、地域未来フォーラムに参加された方の発言もこのビジョンに確実に影響を与えているので、何らかのクレジット表記を検討していただきたい。

〈事務局〉

香寺高校の方々にイラスト作成いただいたことは、クレジットが抜けているのでどこかに入れたと思う。ビジョンを語る会等については、個人で参加いただいている方もおり、参加者全員の名前を記載することは難しいので、開催回数や参加人数を記載することで、ビジョン策定への県民の皆さんの参画を明記したいと思う。

〈委員〉

パブリックコメントについては、募ってもなかなか意見が集まらないことが多いので、できるだけ多くの方に意見をいただけるよう工夫をお願いしたい。

本日も委員の皆さんから多くの貴重な意見をいただいたが、本体案の中身が大きく変わるものではなかったかと思う。本日の意見を踏まえ、事務局で本体案の修正を行っていただき、そこで判断がつかないものについては、委員長と副委員長で検討させていただくという方針でいかがでしょうか。

〈全委員〉

異議なし。

(以上)